

令和元年第6回定例会

委員会視察報告

産業建設常任委員会

10月8日～10日

福島県いわき市

一般社団法人 いわき観光まちづくりビューロー

山形県金山町

金山町 環境整備課

山形県尾花沢市

尾花沢市観光物産協会 银山温泉観光案内所

山形県米沢市

米沢市 ブランド戦略課

湯 沢 町 議 会

産業建設常任委員会管外視察研修 委員長 田村 計久

この度の研修は我が町の基盤産業である観光の今後の在り方と四季を通じて訪れたいくなる街をテーマにしました。今年度から取り組む湯沢版 DMO 設立に関連した自治体、団体と長年街並み景観整備に取り組む地域を視察地としました。

○視察地(1)一般社団法人いわき観光まちづくりビューロー 福島県いわき市

人口 342,384 人 (昭和 41 年 5 市 4 町 5 村が合併) 各自治体の観光協会を平成 5 年社団法人いわき市観光協会に、平成 20 年、各事業者や市民も含めそれぞれの主体が連携・協同して事業を実施する (社) 法人いわき観光まちづくりビューロー設立、30 年日本版 DMO 法人に登録。いわき市予算 1363 億円、観光費 6 億円で指定管理料含め法人予算は 2 億 1 千万円、DMO を中心に地域が一丸となって取り組む観光づくりを合言葉に地元企業、個人、330 名 (会費 880 万円) が会員登録、市職員、臨時職員含め 30 名で法人を組織している。合併以後の組織づくりの成果と意識は着実に上がっていると感じた。課題としては自主財源の確保などがあるが、いわき市は農林水産産業 (小名浜港)、温泉など地域資源、工業都市、福島県の中核市であるが市は大きな被害を出した東日本大震災復興の総仕上げを旗印にあげている、観光産業による交流人口の増加対策は 1,232 km²と広い市の面積で多くの課題はあるが地域活性化と活力をとり戻すための施策として市民が取り組む最善の方策ではないか

○金山町街並み(景観)づくり 100 年運動 山形県最上郡

山形県の東北部 161 km² 30 年 3 月現在人口 5,483 人 交流人口 174,800 人

古くは金山杉で林業の盛んな町が「美しい自然・清い心の町、金山」を町づ

くりの恒久のテーマとし昭和 59 年「街並み(景観)づくり 100 年運動」提唱、

昭和 61 年金山町街並み景観条例を施行により生活道路、公園の整備など住環境整備、歴史的建築物の利活用等景観的な魅力づくりを進め平成 4 年に、行政主導から地域住民と共同の街づくりに取り組んで 5 地域ごとの住民主体で『地域振興計画づくり』制定、行政、住民が協働する景観づくりと発展した全町公園化構想から始まり地域住宅計画、暮らしの道づくり計画、街並み景観

整備事業、無電柱化計画、都市計画決定道路の変更など事業は行われた。

平成 12 年初めて視察に行き当時の職員がなかなか住民の理解が得られない苦労話を思い出したが当時でも大きな蔵に銀行や商工会が入り国道沿いには金山づくりの住宅が点在し目指す街づくりの雰囲気は感じられた。

今回訪れて大きく事業が展開し、公園整備、道路、住環境と街づくりが着実に進んでいることを実感、18 年間の成果を羨ましく思いまた訪れたいと思った着実に進む街づくり、住民が前面に出て町が参加をする、住民意識の高さが官民の努力により成果を上げてきた、住民には整備された環境だが、これという産業もない地域経済といかに結び付け、人口減少の著しい地域の産業として方向づけができるかが課題と思う。

○温泉を核としたまちづくり

山形県尾花沢市

雪とスイカと花笠のまち 昭和 61 年 3 月 银山温泉家並保存条例制定

大正初期の建築様態を保存するため増改築、外装部改築に対し補助金交付し施工基準により景観の保持を図っている、木造 3 階、4 階だての旅館が山間の川沿いに並びまさに大正ロマンを満喫できる雰囲気は外国人に受けていて平日にもかかわらず中国人にほぼ占拠されていた、尾花沢市の職員 2 人に現地説明を受け宿泊、子供のころの湯沢旅館を思い出しタイムスリップ、隙間風が気になる微妙な寒さに早く朝が来ることを願い就寝。

○『挑戦と創造』米沢ブランド

山形県米沢市

米沢ブランド戦略を策定と推進、平成 28 年地域イメージの強化と個別ブランドの強化を図ることを産学官金言が連携、市民が参加し共通認識のもと豊かなまちづくりの実現を目指し、中、高、大学生、飲食業、観光業、企業勤務者、子育て世代、工芸作家、など 32 グループ・215 名の市民参加型のワークショップにより 5 つのコンセプトを評価し上杉家鷹山公の DNA 『挑戦と創造の町・米沢』とした。

米沢品質アワード 特に秀でた米沢品質を有する商品やサービス等に対する検証制度を設置、5 つの審査ポイントを設け委員会で審査決定する、産品だけでなくサービス、観光、文化、企業など様々な領域が対象で地域、自治体全体の質の向上が図られるのではないかと

今回の視察を振り返り、視察地が遠方のため移動に多くの時間を要し委員の皆様には大変ハードな日程を消化していただきました。

福島県では東日本大震災後の復興著しい活気を取り戻した、いわき市、仙台松島、対照的な途中いまだに帰還困難地域の6号線沿いを通過改めて原発事故の悲惨な情景に心が痛みました。

山形県では天気に恵まれ車中から東北ののどかな情景に浸りましたが視察地の自治体ではそれぞれ地域活性化に取り組む姿に熱い情熱を感じたのは私だけでしょうか、宿に入るのも遅い時間になり自由時間も取れず、旅費の追加徴収となり負担をかけてしまい申し訳ありませんでした。同行職員、委員の皆様には感謝もうしあげます。

湯沢町議会 産業建設常任委員会 管外視察

令和元年 10月8日(火)～10日(木) 2泊3日

並木 利彦

■10月8日(火)

●福島県いわき市 一般社団法人 いわき観光まちづくりビューロ

▼視察内容 DMOの取組と観光振興について

■10月9日(水)

●山形県金山町 金山町役場 環境整備課

▼視察内容 街並み景観の整備について

●山形県尾花沢市 銀山温泉(尾花沢市観光物産協会)

▼視察内容 街並みと観光振興について

■10月10日(木)

●山形県米沢市 米沢市役所

▼視察内容 米沢ブランド戦略について

■ 10月8日（火）

●福島県いわき市 一般社団法人 いわき観光まちづくりビューロ

▼視察内容 DMOの取組と観光振興について

◎DMO 組織内に既に会員が組織する部会（観光事業部会、物産事業部会、地域ネットワーク事業部会）が設置されており、関係団体や事業者の代表者が委員として参画している。また、各部会の調整会議として事業部会長会議を開催するほか、各部会での決定事項は理事会をもって承認されることとしており、多様な関係者の議論の場が設けられている。

▶湯沢町DMOは町全体として考えるのか、各エリアで考えて分担していくのか早期に方向性を考えた方がいい。

◎DMO 組織内の会員が組織する各部会において定期的にワークショップ・セミナー・講演会を実施し、部会員のみならず広く地域住民の一般参加も可能として、意識啓発・参画促進につなげている。

▶一般参加は、湯沢町DMOでも大事なことだと思う。

◎ いわき観光物産協会を発展的に解消する形で発足し、『観光都市いわき』のための観光まちづくりを総合的・戦略的に推進・コーディネートする組織」をコンセプトとして活動している。

1. いわき市観光の総合窓口
2. 観光戦略の立案と実践
3. 地場観光資源の掘り起こしと創出

4. 観光まちづくりの総合的コーディネート

◎いわき観光まちづくりビューロー会員には、行政、宿泊業者、飲食業者のみならず、交通事業者、農業者など多様な関係者が参画するなど官民が密接に連携した運営を実施。

▶湯沢町DMO中で取り入れたい。

◎ 区域が単一の行政単位内にあり、東北地方及び福島県内でも温暖な気候・温泉・海を土壤に、区域内に共通するコンセプトとして「フラガールが生まれた街」がある。映画や東日本大震災以降のキャラバン活動を通じて全国区となった「フラガール」をキーとして地域内での受け入れ体制や周遊の仕組みづくりを創出する。福島県内では磐越自動車道・JR磐越東線・福島空港などの交通網が整備されている一方で、常磐自動車道・JR常磐線・茨城空港など茨城県や宮城県からの交通網も発達している

■ 10月9日(水)

●山形県金山町 金山町役場 環境整備課

▼視察内容 街並み景観の整備について

◎風景を活かしたまちづくりを目指して

私たちは日常生活で便利さや機能性を優先させ、心のどこかで追い求めてきた、懐かしいたたずまいの家並みや風景を捨てきれない。

このような状況の中で、「新金山町基本構想」の中で『街並み(景観)づくり100年運動』を基幹プロジェクトとして位置付けし、推進をしている。これは100年をかけて自然(風景)と調和した美しい街並みをつくっていかうというものである。あわせて林業等の地場産業の振興や人と自然の共生を図るというものの。

▶湯沢町は、高層マンションが乱立している町ではあるが、地域ごとの特性を活かした町づくりはできるだろうと思う。

◎運動の目指すもの

- 1.人と自然との関わりづくり、さらには人と自然との共生(調和)づくりの推進。
 - 2.美しい街並みの形成とCI(コーポレート・アイデンティティ)化、地域の個性化を推進。
 - 3.地域風土、地域材、在来工法等、杉を中心とした地域資源の有機的結合を図る
- 言い換えれば、この運動は、自然(風景)と調和した美しい居住環境の構築運動であり、林業振興さらには美しい町づくりのためにも効果的な戦略であり、地域

住民の過去、現在、未来を担う子供たちに、本当に美しいものは何かを教示する「街並みの美学」として捉えることができる。100年以上も前にイサベラ・バード女史が観て感じたロマンチックな街並みが、着実に現代に蘇ろうとしている。

◎街並み（景観）づくり 100年運動の実現のために

街並み（景観）づくり 100年運動の提唱から三十数年が経過し、金山住宅に代表される白壁と切妻が映える美しい街並みが、少しずつですが形を成してきている。

風景とは、時代と共に変化するものであり、その時代の担い手によって良くも悪くも制御できるもの。今こそ、次世代に美しい風景を継承するために、何が必要で、何に価値があるのかを見極めなければならない。そして、町民一人一人が主体的に考え、行動し、町全体でこの運動に取り組むことが100年運動を実現するために欠かすことのできない要素。

▶湯沢町の街並みも各エリアの特色を活かし創っていききたい。

●山形県尾花沢市 銀山温泉（尾花沢市観光物産協会）

▼視察内容 街並みと観光振興について

◎大正ロマン漂う湯の街

古く16世紀に銀鉱が発見され、江戸時代には公儀山として栄えた銀山。現在は木造三層四層の旅館が軒を並べる温泉街として注目を集めている。風格のある落ち着いた町並みには見どころも多く、四季を通じて人々が訪れる。

大正時代の面影を残す温泉旅館街。ガス燈に照らされた町並みが情緒豊かで、新緑、紅葉、雪景色など、季節によっても様々な表情がある。年間を通して楽しめる観光スポットとして、全国的にも人気。

▶湯沢町とは、道幅、立地条件に隔たりがあり取り入れるには工夫が多く必
になると思う。湯沢町独自の街並み構想が必要。

■ 10月10日（木）

●山形県米沢市 米沢市役所

▼視察内容 米沢ブランド戦略について

◎米沢ブランドについて

米沢ブランド戦略は、「挑戦と創造のあかし米沢品質」のブランドスローガンのもと、市民が一体となり、産品やサービス、観光、文化、行政など様々な領域で米沢品質向上の運動を起こすことで、米沢全体を高付加価値化し、まちの活性化と関係人口の拡大を目指す事業。

これまでも、市民が参加し、市民同士が活発に意見交換して、ブランドコンセプトや施策を考えていた。これからも、米沢を愛する市民ひとりひとりが、「米沢ブランド」や「米沢品質」について、共に考え行動するとのこと。

『米沢の未来は、米沢を愛するものにしかつukれない』

「米沢らしさ」をしっかりと見つめなおし、「継続的に」発信し続け、自らの広がりをもせる「運動体」となるまで、米沢の未来をつくる様々なモノ、ヒト、コトの思いや行動を共有し、応援していけるよう、このサイトから様々な情報を発信する。

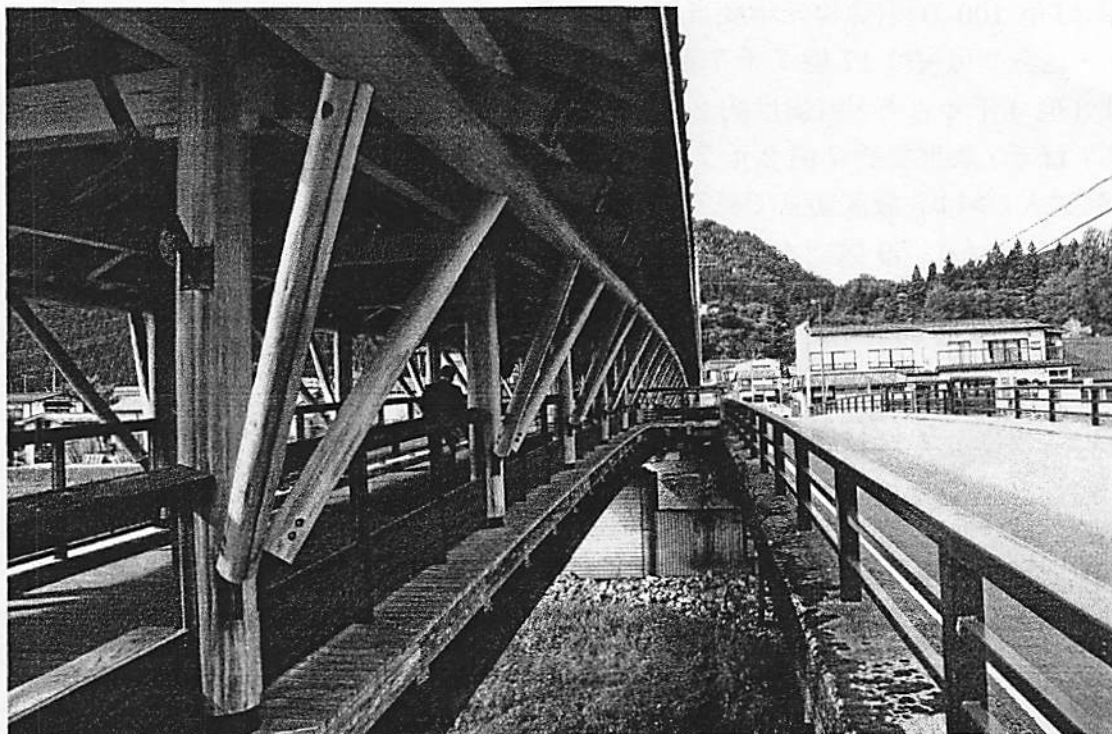
▶湯沢ブランドは、取りあえず雪、魚沼コシヒカリがあるがそれだけでは、通用しない。湯沢学園、川、山他ブランドとして取り組む素材はあると思う。

一日目の視察地「いわき市」から宿泊地・松島より東北道・国道 47 号・国道 108 号を北上し山形県最上郡金山町に到着。昼食後「街並み景観整備について」景観政策推進員の西田氏より説明をしていただき街並みを視察させて頂く。金山町は、昭和 57 年に全国に先駆けて施行した情報公開制度を「公文書公開条例」をはじめ、町民が誇りとする美しい景観保持・創造や地域産業の活性化を目的とした「街並み景観条例を制定し、「街並みづくり 100 年運動」に取り組んでいる。少子高齢化や産業・就業構造の変化等により様々な課題が考えられる状況の中、平成 27 年 10 月に策定した「金山町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げた「雇用創出、定住促進、結婚、出産、子育て支援、地域連携」の施策や、人口ビジョンを軸に①人材育成②健康づくり③産業振興④定住と交流の促進の従来の重点分野を合わせ、施策を展開している。四季折々の美しい自然、先人が築いてきた歴史・文化の中で、次代を担う子供たちに「美しい自然 清い心の町 金山」を継承していくため「誰もが住みたくなる町、住んで良かったと感じられる町」を目指す と話されていました。金山町の一般会計予算は総額 38 億 100 万円(令和元年度当初) <歳入>の大きなものは町税・約 4 億 3 千万円・地方交付税は 17 億 7 千 7 百万・国、県支出金は約 6 億 2 千 4 百万・繰入金は 3 億 4 千 4 百万・町債は約 2 億 6 千 6 百万等です。<歳出>人件費は約 6 億 1 千 7 百万・物件費約 7 億 2 千 7 百万・補助費等は約 6 億 4 千 4 百万等です。<年列別人口>は 5 歳区切りで見ると、65 歳から 69 歳が一番多く次に 60 歳から 64 歳、55 歳から 59 歳です。又 20 歳代が少ないのが気になる数字です。総人口で 5483 人の内 80 歳から 84 歳で 296 人、85 から 89 歳で 245 人、90 歳以上で 206 人です。数字上ではやはり少子・高齢化となります。この先心配されるのが年間約 100 人が少なることです。この数字を見ながら金山町を語られている推進員の方も大変だと感じました。しかし希望を持っている以上は金山町を多くの皆さんが訪れ、住みやすい町にさせていただき目標に向かって進んでいただきたいと思います。

さて、町中を視察させて頂いて感じたことは、高い山が無いのに清らかな水が多く流れ その水をうまく利用されていることは、うらやましく感じました。街づくりは、木材を活用し又行政も補助金を入れ、国・県も利用しながら景観整備をしていることには、湯沢町も見習う所もあるのではないかと思う。金山町の「街づくり」は金も使うが 知恵も使うと感じました。残念なのは、どのようにして財政を潤すのか手腕が問われるものと思います。



金山町では「住宅建築コンクール」が行われている。



屋根付き歩道と、隣は国道が通っています。「まごごろ橋」
以上で金山町のレポートとなります。

「米沢市観光まちづくりビジョン」の前段では、米沢ブランド戦略の推進に向けた政策提言が進められていた。

1 組織体制について

(1) ブランド戦略推進担当に関すること

ブランドの戦略事業について今後更なる推進を図るため、「担当課」を設置すること。その際、「PR が下手」という弱点を克服するため、広報や PR を一に行う部署を当該課内に設置すること。

(2) ブランド戦略の管理体制に関すること

「ブランド戦略推進担当課」を先頭に、フォローアップ委員会、専門・テーマ別、各分野の団体組織など、官民協働での推進体制を構築し、維持継続させていくことが必要と考える。 ついては、全体管理、重要業績評価指数、(KPI)による不断の検証、PDCA サイクルでの改善などを行うこと。

2 市民の意識醸成の取り組みについて

(1) 米沢市への愛着、自分たちのまちを高めようとする意識の醸成に関すること

地元の物産、農産、観光、歴史、文化、をブランド化して発信しようとするとき、そこに住んでいる市民がまずその地域を好きになり、誇りを持つことが大事である。すなわち、米沢市への誇りや愛着、自分たちのまちを高めようとする意識が必要と考える。市においては、例えば「米沢は雪さえなければ」と否定的に捉えるのではなく、「米沢は雪が多く、寒いからこそ、四季が鮮やかで食べ物がうまい」と否定的に捉えられる感覚こそが、広く市民に広まることが望ましい。そのためには外向きのプロモーションも重要だが、それ以上に内向きの発信が重要である。米沢ブランド戦略推進事業の目的や背景について市民周知を充分に行うとともに、このシビックプライドの醸成に努めること。

(2) 市民参加によるまちづくりに関すること

シビックプライド(郷土愛)を醸成するとともに市民参加によるまちづくりを推進するため、以下の取り組みを行うこと。

① シティプロモーション条例の制定

地場産品の積極的利活用、魅力の発掘・発信、おもてなしのこころなどにより、市民が地域を誇らしく思う心を醸成することや、米沢市のイメージ向上、魅力の創造と発信による交流・定住人口の増加などを目的にした「米沢市シティプロモーション条例」の制定に向けて取り組むこと。

② 「市民みんなが町歩きガイド」の作成

生活に密着した地域の魅力や見どころを取り上げたガイドブックを作成し、市民誰もが米沢市を紹介できるような取り組みを行うこと。またそれには外国人向けのものも含むこと。

③ 関係人口増加を目指した「深堀スポット」の発掘 「新たな発見が新たなプランにつながる」ことをコンセプトに、資源の再発見を目指す取組みを積極的に行うこと。

④ ゲストハウスの活用

農村民泊や空き家、古民家を活用し、モノだけでなく滞在して「米沢そのもの」を体感できる取組み

⑤ 市民モニターの募集

「市民モニター」を募集して委嘱状を交付し、市民のアンテナとなって、米沢ブランドに関する様々な意見を寄せてもらう取組みを行うこと。

3 異業種連携及び官民連携による取組みについて

(1) 「TEAM NEXT YONEZAYA」への支援を行い、恒常的に連携の強化を図ること

「米沢品質向上運動」のカギを握るのは「TEAM NEXT YONAZAYA」である。また、このTNYは、米沢ブランディング活動の推進力であり実動部隊でもある。

こうしたことから、ブランド戦略推進担当はTNYへの支援を行うことに、恒常的に連携を図る必要がある。

具体的には、TNYに結集した個人、団体、事業所同士の活発な議論を基盤として、本提言1の(2)で述べているフォローアップ委員会、専門・テーマ別、関係各分野の団体組織といった部門をチーム内に構築し、持続性を向上させる取組みを行うこと。

4 米沢牛のブランド力の強化策としての団地化について

(1) 新たな生産体制の構築について

米沢牛は米沢を代表するブランドとして全国的に認知度は高く、地域の商材の中では傑出した存在であり、他の米沢のブランド商材を牽引していくことが期待されている。それに向け生産頭数を拡大し流通量を確保することは喫緊の課題となっている。これを解決する施策として、米沢牛生産拠点の団地化を推進することに大きなメリットがあると考えられる。団地化においては以下のような効果が期待できる。

- 個人の畜産経営から法人化、大規模経営に転換できる。
- 団地内で子牛の生産、肥育から出荷を行うことができる。
- 複数の事業者で運営管理を行うことにより全体的なレベルアップ効果が見込める。

- 将来の事業の継承、譲渡をスムーズに行うことができる。
- 集約化による流通コスト等のスリム化が図られる。
- 現在課題となっている、冬期間の育成牛預託施設併設を検討できる。
- 家畜排せつ物処理の効率化が図られ、悪臭も最小限に抑制できる。

(2) 家畜団地の取組みの支援

前項で提言した団地化の実現に向けて、計画、施工、事業継続の各段階において以下の施策を行い、業界として一体的に事業を進め、将来にわたり持続的かつ安定的に事業を行えるように支援する必要があると考える。

① 協議会の設立

業界団体、経営者の意見を集約し、団地化を計画する協議会を設立し、方向性を明確にすること。

② 各種補助制度の活用支援

国・県と連携し協議を進め、大規模な基盤整備に活用できる補助制度の情報を多方面から収集し活用できる体制を構築すること。

③ 市有地の活用

団地を建設する際には広大な土地が必要となり、取得の手続きや多額の買収費用が想定されることから、市所有地などを積極的に活用すること。

④ 将来を見据えた経営支援

団地を利用する経営体に対して、将来的に事業基盤を移管し自力での経営を促す等の長期的な計画の立案を行うこと。

以上が米沢ブランド戦略の推進に向けた政策提言であった。ブランド戦略事業の経緯は次のようになる。

H28年6月 地方創生推進交付金を活用した「地域商社を核としたオール米沢での米沢ブランド戦略事業」

H29年3月 米沢ブランド戦略確定

H29年4月 産業部内に「地方創生参事」に株式会社博報堂が参加
産業部農林課内に「米沢ブランド推進室」を設置

H29年7月 米沢ブランディングプロジェクトを組織
博報堂・プロジェクトとの連携

H29年8月 米沢ブランドコンセプト策定のためのヒヤリング調査

H29年11月 コンセプト策定、上杉鷹山のDNA「挑戦と創造」

H30年5月 ロゴマーク等の決定

H30年11月 次の米沢へ「挑戦と創造」出発式

TEAM NEXT YONAZAWA の募集開始

H31年4月 産業部に米沢プラン戦略課設置

R元年10月 米沢品質 AWARD 選出

以上が米沢ブランド戦略の経緯である。

米沢市役所でのブランド戦略について様々な説明を受けましたが、戦略の先頭でプランの作成を行っているのは博報堂である。市民と行政が一つとなり事業展開を行うというが、もう少し見届けたいものである。

産業建設視察データ

1	湯沢出発
8	いわき昼食
9	
11	いわきまちづくり
13	石炭化石館
14	
15	福島6号線
20	
21	
30	松島
33	
44	大観荘
47	国宝
48	
49	
51	金山町昼食
53	
54	
59	
61	
64	银山温泉
65	
70	
75	
79	
86	上杉神社

産業建設常任委員会 視察研修 東北周辺方面

2019年10月8日~10月10日(2泊3日)

湯沢町役場10月8日(午前7時出発)
欠席議員
南雲好幸・和田一郎

関越自動車道で群馬方面へ



岸野雅人氏見送り

昭和観光((株))
旅行センター

湯沢出発し1回目の休息 波志江PA ・ HASHIE 8時07分着

8時20分出発 関越自動車道より北関東自動車道へと進行

毎回、北関東自動車道に入るときは休憩場所へ



波志江出発し次の休憩所は、笠間PA
KASAMA 笠間到着9時36分
北関東自動車道、9時47分出発

笠間稲荷で有名

友部JCTで北関東自動車道に分かれをっげ、常磐自動車道に入る。

関本PA・10時47分到着 休憩

高速料金11400円 湯沢から湯本
湯本着11時10分

関本PA・10時55分出発
常磐自動車道をさらに北上



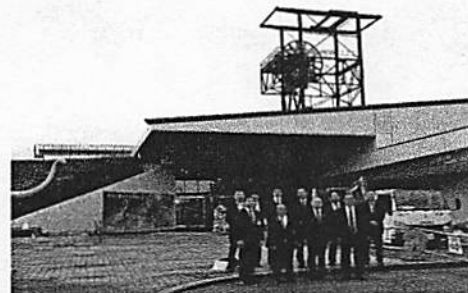
いわき、に入り昼食休憩 11時40分到着
新撰市場のレストランのため、魚が美味しい
食事後、お気に入りをお買い物です。

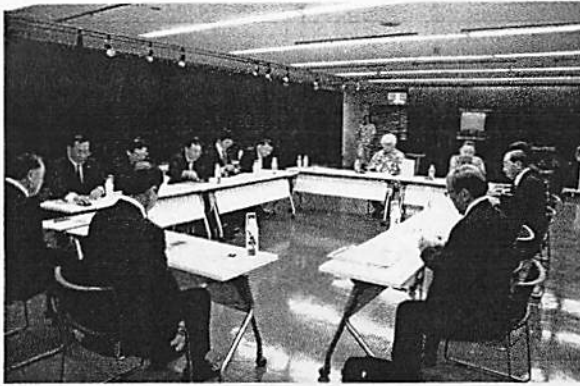
場所は、いわきららミュウ
次は研修のため、12時30分出発

常磐自動車道を北上、いわき・の町中に

いわき観光まらづくりビューローに到着
12時50分
(石炭化石館)にて研修。お迎えを受ける

sa
食事後なので眠くならなければいいが。





石炭化石館にて(DMO・観光振興)
 一般社団法人・
 いわき観光まらづくりビューロー
 観光戦略室長・新妻氏
 いわき市議会事務局
 吉田氏 の説明を受ける。
 ・いわき市観光まらづくりビジョン
 ・観光の力で、いわきを豊かに
 ーDMOを中心に、地域が一丸となって
 取り組む観光まらづくりー

いろいろと意見交換ができました。副町長も初めての視察とあって疲れたのではと、約1時間30分の視察をさせて頂き、石炭化石館を15時00分出発
 一路 いわき湯本IC・広野ICを通過し、今回皆さんに観て頂きたい場所、国道&号線に入る。

福島県浪江
 全町避難区域のため車内より撮影
 ガソリンスタンドは7年前そのまま
 まったく手を付けることのできない
 現状を皆さんはどう感じたか。

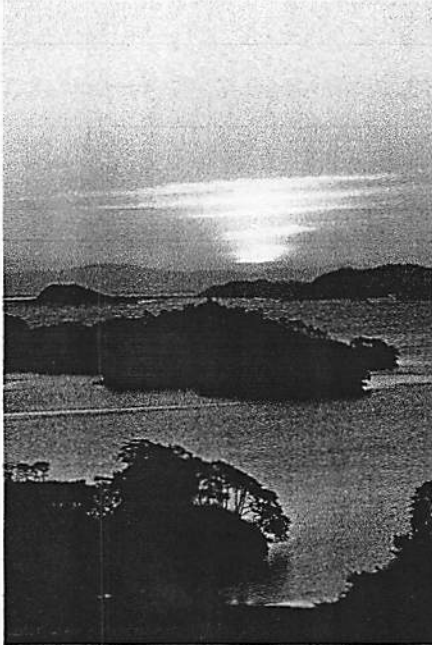


ダンプにつづき走ると、
 8月にこの道をとりました。が、空気
 匂いが違うのは自分だけか...

救急車にも合う、



国道6号線を通過して 皆さんはどんな思いで見えていたのか、現在日本の国に起きて現状を目に焼き付け、今後の議員・職員の職務に一見となれば幸いと思う。
 南相馬・鹿島SAで休息 16時20分到着間もなく出発 松島に向かう
 一日目の宿泊場所 松島 大観荘に18時到着 ゆっくり休んでください。



10月9日の朝 現在の時間 5時41分



松島・大観荘の部屋からの一枚



二日目10月9日 8時30分大観荘の前で撮影 夜はゆっくり休めましたか。

今日も一日 視察・研修です。

8時40分出発 近くの瑞巖寺で拝礼、瑞巖寺は伊達政宗がまつられ 周辺に圓通院・陽徳院・等が造営され寺町が形成された。





寺町を約30分ほど買い物・周辺の探索し
9時10分 寺町を後にする。

萩の月 はここで買い物
お店が早い為、開店していないのに委員長権限で
お店を開けてもらい 買い物する

松島を出発 東北道・国道47号・国道108号で金山へ

途中 あ・ら・伊達な道の駅で休憩



道の駅 10時30分出発 金山町へ



金山町到着 12時10分

一福や にて昼食
イザベラ・バード御膳をいただく

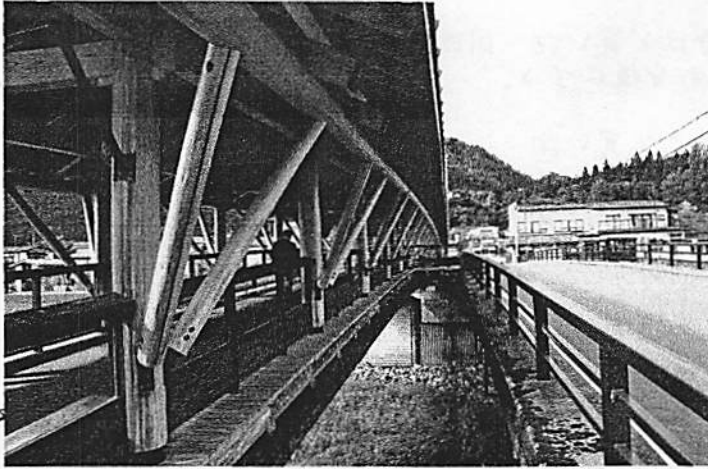
民家食堂な感じ
御膳金額・1500円 メニューよし

金山町 環境整備課
景観政策推進員 ・西田氏
景観係長 ・藤山氏

金山町について説明受け
13時から14時30分まで
説明後町中へ



屋根付き本造橋・まごころ橋



道路と歩道を区別
金山杉を使い安価で作る

金山町自慢の一品

金山町まどろ橋での一枚



金山造りの家は峰の所
前後に突き出ている

金山杉を活かした「金山町住宅建築コンクール」が行われている。
長時間街中を案内していただきました。

山形県金山町は多くの財閥・代議士等を輩出しています。

金山町の視察を終了し14時50分二日目の宿泊地銀山温泉に向かう

食事処の女将さん又ご主人には珍しい御膳を頂きありがとうございました。
街中を案内していただいた環境整備課の皆さんありがとうございました。



16時銀山温泉に到着
銀山温泉を視察、市職員より
温泉街を案内していただき
観光協会の方から、銀山温
泉について説明を受ける。

大正ロマンおふれり
宿の前で

二日目の宿泊どころ
古勢紀屋別館です。



夜の街
さむい

おやすみ

三日目は、銀山温泉を8時30分出発し米沢市役所にて研修「米沢ブランド戦略」に
市役所10時30分到着しだい研修開始、「米沢ブランド戦略」について意見交換
米沢市議会より議長鳥海(とりうみ)氏、副議長山田氏よりお迎えを頂く
米沢ブランドの原点は、上杉鷹山の心との説明を受ける。「なせば成る なさねば
何事も成らぬは人のなさねなりけり」12時まで熱心に研修される。全予定の視察
を終了する。米沢研修後昼食を取り、上杉神社を拝礼する。米沢藩上杉家の家祖で
上杉謙信の歴史館を見学後帰路につ。帰りは新潟回りです。長い視察も終わり車中に
静かに眠っている方もおりました。視察先の皆様にご心より御礼申し上げます。
事務局始め副町長・部長・課長にも お付き合ひ頂きありがとうございました。
昭和観光の運転手さんと苦勞様でした。無事18時30分湯沢到着でした。

山形県金山町視察報告書

産業建設常任委員 関 忠夫

視察日 令和元年 10 月 9 日(火)

金山町環境整備課は景観政策推進員 西田 徹

1、街並み(景観)づくり 100 年運動の成果と課題

産業は農林業を主体とし、近年は酒米やニラなどの産地化が図られてきている。

林業では杉材の生育に適した地として、銘木「金山杉」が知られている。

明治 11 年(1878 年)、イギリスの紀行家イザベラ・バードが金山町を訪れ、著書「日本奥紀行」では非常にロマンティックな雰囲気場所と評し絶賛している。

現在、金山町は往時の宿場町の風情ある街並みが残り景観の整備と地場産業(林業振興)の活性化を目的とした「街並(景観)づくり 100 年運動」が積極的に展開されている。

2、経緯

金山町では、昭和 30 年代より金山町民が参加し共通の目標として取り組めるテーマに「美しい環境づくり、景観づくり」を行政の主要施策に位置付け、公共建築物のデザインへのこだわりや、「住宅建築コンクール」等が始めるようになり、今日における街並み(景観)づくり 100 年運動の基礎が形つくられていった。

金山杉を使った街並みづくり、昭和 58 年から助成金 30 万から 80 万円、新築で 120 万。

3、美しい景観づくりの基礎形成期

昭和 30 年代後半に始まる環境の美化に対する啓発運動としての「金山町美化運動」を中心とした取組の一方で昭和 40 年代後半から 50 年代にかけては、町全体として美しい町をつくること、建物の美観を含めた美しさを追求していこうという気運が生まれてきた。昭和 53 年には林業振興における金山住宅の普及と金山大工の技術向上を目的とした「住宅建築コンクール」が始まった。

4、景観づくりの概念形成期

昭和 58 年度策定の「新金山町基本機想」の中で、街並み(景観)づくり 100 年運動が政策課題として位置づけられ、林業を中心とした地域産業の振興と結びつけながら「美しい街並みと地域の個性化を推進する事」が一つ目標として掲げられた。「住宅建築コンクール」切妻と白壁による「金山住宅の様式」を基本にした街並み景観づくりを一層進めるため昭和 60 年度には「金山町街並み景観条例」が制定された。

5、無電柱化推進計画

平成 16 年 3 月に、国土交通省をはじめとする関係省庁及び関係事業者から構成される電線類地中化推進検討会議において「無電柱化推進計画」が策定され、同計画に基づく東北地方の実地箇所調整枠に金山町を組み込まれた。無電柱化事業の実施においては箇所別に各関係者と実施方法等の協議を行い東北地方電線類地中化協議会の承認

を経ることが必要とされている。

6、100年運動の成果(35年でなしえたもの)

景観誘導、住宅建築コンクール、街並み景観条例、住環境整備
道路・通路・橋の整備、公園・オープンスペースの整備、里山の環境整備
地域住民による環境美化活動、施設づくり
水路・水辺環境の整備

昔から水清き町として清流が町民の誇りとなっている。

また、地域内を巡る水路「入水」として、住民生活にとって重要な役割を担っていた歴史的な背景もある。そのため街中を巡る水路や公園内の池と親水空間の整備にあたっては、清流の保持を図りながら、できるだけ自然素材の(石材)も活用や緑環境の実現に努め事業用用水路の「大堰」「めがね堰」流雪溝整備における導水路部での石積み水路、「八幡区公園の親水池」「街並み交流広場の親水池」等が整備されている。

7、次世代に向けたランドデザインの必要性

(1)ドイツ研修(派遣団体から) 18回実施

ドイツの街並みは金山の町づくりを学ぶ上で大変勉強になった

(2)今後の町づくりの参考になると思うので役場職員(若い人)の視察を実施してほしい

(3)今回参加した役場職員は大変勉強になったと思う。参考にしてほしい。

山形県銀山温泉視察報告書

産業建設常任委員 関 忠夫

視察日 令和元年10月9日(火)

商工観光課、観光物産係 大崎 晋太郎

1、銀山温泉の歴史と現状

銀山温泉は、15世紀中ごろに金沢の山師によって発見された。

銀山温泉は、尾花沢東部の山間地にある。大正～昭和初期の面影を残す木造3層4層の旅館が銀山川の兩岸に軒を並べる山間の温泉である。

銀山温泉の歴史は、銀山で働く鉱夫が鉱脈を探しているとき偶然温泉を発見したのがはじまりである。最初は鉱夫たちが利用していたが、次第に温泉の効能が評判になり、鉱山が衰退してからは湯治場として栄えることとなった。銀山の廃山によりそのまま銀山に住み着き温泉の経営に転じた山師もあったという。

2、温泉街の整備

昭和61年3月定例市議会において「銀山温泉家並保存条例」が制定される。

条例の適用を受けて整備された建築物等は、昭和61年度から平成15年までの18年間で28件、補助金総額は6千4百万円となった。平成元年度から3か年計画で「銀山温泉地域街路整備事業」に着手、ガードレール・高欄整備・ガス灯・敷石整備などの温泉街の整備を行っている。平成9年度には「特定環境保全公共下水道事業」に着手、平成15年12月に供用開始された。平成12年度から平成15年度までの4か年で給湯管布設・貯湯槽、足場の整備等を行っている。この事業と併行して共同浴場の移転改築も行っている。さらに大正ロマンの温泉景観を整備しようという地元の気運が高まり、温泉街の電柱、電線類を撤去する「電線地中化事業」を行う。県事業による河川整備、白銀橋歩道橋設置なども行っている。

山形県米沢市視察報告書

産業建設常任委員 関 忠夫

視察日 令和元年 10月 10日(木)

米沢市ブランド戦略課 課長 本間 浩

米沢ブランド推進 主査 根津正孝

1、米沢ブランド戦略の目的

「米沢ブランド」について産学官金言が連携を密にしながら、市民参加のもと見つめなおし、協働することで、米沢の産品・サービスが約束することの共通認識を形成し、豊かなまちづくりの実現に資することとする。

2、ブランド化に向けた各種提案

提案された各種事業案については、アイデアとして参考にするとともに実現の可能性が高いものは実施に向けて検討する。米沢の魅力発掘プロジェクト・インターネット動画の発信・SNSを活用した市外モニターツアーによる魅力の評価。

米沢ブランド発信イベントの開催。米沢ブランド認証制度の運用。

3、米沢ブランド戦略の推進体制

総合プラットフォームのもとで「オール米沢」の地域ブランドを策定し、総括する体制が必要である。オール米沢の地域ブランドのもと、それぞれ異なるターゲットに対して独自の戦略をたて、地域資源を活用した商品の開発から、市場の販路開拓までを推進する、母体となる組織や、果たすべき機能について検討し、設立に向けて具体的に準備を進める必要がある。

10年後 20年後の活気ある米沢を、市民と行政が一体となるように、若い人を含むワークショップの開催、米沢の未来は米沢を愛する人にしかできない。

福島県いわき市

10月8日(火)福島県いわき市の一般社団法人いわき観光まちづくりビューローを訪問し、DMOの取り組みと観光振興について、観光戦略室長新妻康宏氏より詳細説明を受けた。

そもそも、いわき市は昭和41年10月に5市4町5村の大同合併によって誕生した。福島県の東南部に位置し、太平洋に面する温暖な気候に恵まれた人口約34万人を有する中核市でもあります。

湯本温泉郷などの豊富な地域資源を生かした観光産業や、東北有数の製造品出荷額を誇る工業都市でもあります。

合併当時は単協・地区観光協会として発足しスタートした単協を発展的に解消し、平成5年4月に県内初の法人化した社団法人いわき市観光協会が誕生し、会長が市長から民間に移行した。

平成20年6月に社団法人いわき市観光物産協会を発展的に解消する形で「社団法人いわき観光まちづくりビューロー」が発足した。

平成22年度にはビューローが本市観光振興の中核機関であるとの認識のもと、22年度ビジョンを策定したが、各種事業遂行の中、平成23年3月11日に東日本大震災が発生し甚大な被害を受けた。以後、風評被害等に悩まされる。

平成27年に22年度ビジョンの見直しをし、平成28年には市と連携し「日本版DMO形成・確立計画」の策定を進め、平成29年1月20日付で「日本版DMO候補法人」に登録され、平成30年3月30日付で「日本DMO」に登録された。

その後22年度ビジョンを検証し「いわき市観光まちづくりビジョン」を改定した。いわき市における観光・物産振興に関して2019年～2023年までの5年間における展望を示したもの

基本方針及び3つの基本戦略と15のアクション、数値目標を定めたものである。

基本方針の3つは

- い…行きたい場所を選んでいただくために
- わ…わくわく気分になっていただくために
- き…来てみて満足していただくために

である。

DMO法人であるいわき観光まちづくりビューローは、いわき市における観光まちづくりの舵取り役として観光物産事業者をはじめ、各団体等と連携しながらいわき市の「観光

まちづくり」と「地域が稼ぐ」の実現に向けPDCAサイクルにより「地域を観光マネジメント」する役割を担う。

構成する会員事業者は、観光まちづくり事業の中心的担い手としての立場を認識し、積極的に事業に参加し、観光まちづくりの推進に貢献する事となる。

しかし、基本的にはどの事業も黒字とならず、市からの補助金・委託料が必要となっている。年間2億2,660万円の補助金を受けている。自主財源の確保は苦戦しているようだ。

全国的知名度があるフラグールがあるが、地域面積が広大で温度差と交通網の整備不足外国人受け入れ環境の未整備が今後の課題となる。

長い時間をかけてDMOを作り、検証しながら前に進んでいるようであるが、湯沢町の現状を見た時、5年・10年単位でDMO移行への時間が必要と思われる。

難しい所もあるように思う。

山形県金山町

10月9日、金山町役場環境整備課を訪問し、街並み景観の整備について説明を受けた。西田徹氏（景観政策推進員）より詳細な説明を受け、街並みを案内してもらう。

金山町は山形県の東北部に位置し、北と西は真室川町、南は新庄市、東は秋田県湯沢市に接する県境の町で、78%が森林で占められ高温多湿・多雪な気候風土から杉の生育に適し「金山杉」という銘木で知られている。人口は5,829人、高齢化率は31.6%。産業は農林業を主体とし、近年は酒米やニラなどの産地化が図られている。

なぜ「街並み（景観）づくり100年運動」が誕生したのか、昭和30年代より全町民が参加し共通の目標として取り組めるテーマに「美しい環境づくり、景観づくり」を行政の主要施策に位置付け「住宅建築コンクール」等が始まり、今日における「街並み（景観）づくり100年運動」の基礎が形つくられた。

昭和49年の総合計画基本構想に始まり、昭和59年・平成10年と基本構想を改定して平成23年の総合発展計画で平成32年を目標に基本目標と施策の柱を打ち出した。

基本目標は

住み続けたい町・誇りを持てる町を目指して

そして6つの施策の柱を決定して、現在景観整備を進めている。

金山住宅ならば最高80万円の助成が受けられる。

これまでの助成件数は1,677件、助成金額2億5千万円余り、対象事業費は95億円と地域経済の牽引役を担ってきた。

同時に町の基幹産業である林業の維持と大工さんの育成に寄与してきた。

整備された街並みを拝見しました。金山町の中心部はかなり整備されていると思うし、全体が茶色系で統一され、昔懐かしい街並みで落ち着いたすばらしい町と感じたが、これだけやってきても電柱地中化事業は進んでいないし、今後も見通しは立っていないようである。

35年を振り返っての意見の中に

- ・ 空き家が増えている
- ・ 大工の後継者がいない
- ・ 金山を訪ねるお客さんが少なくなっている

- ・ 観光・ビジネスに力を入れる時期にきている

等々があるようで、その通りだと思った。景観整備が即、観光に結びつかないのではないかと思った。

金山町は今後、100年計画ではなく100年運動に移行し、次の20年～30年を視野に入れたステージの運動を展開していくようになるようである。

山形県尾花沢市銀山温泉

10月9日銀山温泉を訪問し尾花沢市商工観光課・観光物産係の大崎晋太郎氏より説明を受けた。

銀山温泉は尾花沢市東部の山間地にあり、大正～昭和初期の面影を残す木造3層4層の12軒の旅館が銀山川の兩岸に軒を並べる山間の温泉である。

銀山温泉は、銀山で働く鉱夫が偶然温泉を発見したのが始まりである。

昭和61年3月 銀山温泉家並み保存条例の制定

平成13年 湯のまちづくり委員会が発足し、住民と行政が一体となったまちづくりを進めてきた

老朽化した共同浴場を移転し、跡地に和楽足湯を設置してきた。

平成11年12月に山形新幹線が新庄まで延伸され東京～新庄間が最短3時間となり、県外からの温泉客が益々増加している。

夜散歩に出てみたが、ガス灯が灯る夕暮れは一段と郷愁を誘い、たくさんの浴衣姿のお客さんが散策していた。

しかし、旅館の中には営業を停止している旅館もあり、今後この風景を維持し車の入らない所での改修等、大変なのではないかと思った。

令和元年度湯沢町議会産業建設常任委員会視察研修報告

「見習いたい金山町の景観」

湯沢町議会議長 南雲 正

産業建設常任委員会の視察研修に同行して、10月9日（水）に山形県金山町を訪問した。

金山町は全国で最初に情報公開条例を制定して、いち早く情報公開制度を作った町として知られているが、金山町街並み（景観）づくり100年運動を展開している自治体として、興味を持っていた。

明治初期に日本を旅したイギリスの作家、イザベラバードの「日本奥地紀行」にも紹介されているこの町は人口約5,000人、美しい景観の町づくりを進めていることでも有名である。

街並み景観条例を制定し、助成制度を設け、町には切妻屋根に白壁の住宅が並ぶ美しい景観が広がっていた。

こうした取り組みは国土交通省の「美しいまちなみ大賞」も受賞したという。町の中心部に見どころが多く、生活用水の大堰が流れ、交流サロンとイザベラバード記念碑などが集まっている。こうした観光資源を見に毎年多くの観光客が訪れているという。

まちづくりを進めるには、コストと住民の理解が鍵になるといわれるが、この町は住民の自由を規制することにもなる景観整備を、長年にわたり、住民の理解を得ながら進めてきた成果が表れていることを実感した。

街並み（景観）づくり100年運動の35年の成果を検証した報告書を平成31年2月に発表し、次世代に向けたグランドデザインを示して、その実現化に向けた今後の進め方を提案している。

景観づくりの基盤として、全国に先駆け、昭和60年に「金山町街並み景観条例」を制定し、段階的に全町が条例適用対象区域とされた。

平成24年には条例の一部を改正して名称を「金山町の風景と調和した金山町街並み景観条例」として現在に至っている。

我が湯沢町においても、バブル経済の真ただ中で、30年かけて都市型生活を備えたリゾート地を目指して「アーバンリゾートシティ、30年計画」が策定され、雪国の美しい景観を守るために平成4年9月に

「豊かな自然と調和した美しい湯沢町をつくる条例」が制定され景観整備がスタートした。

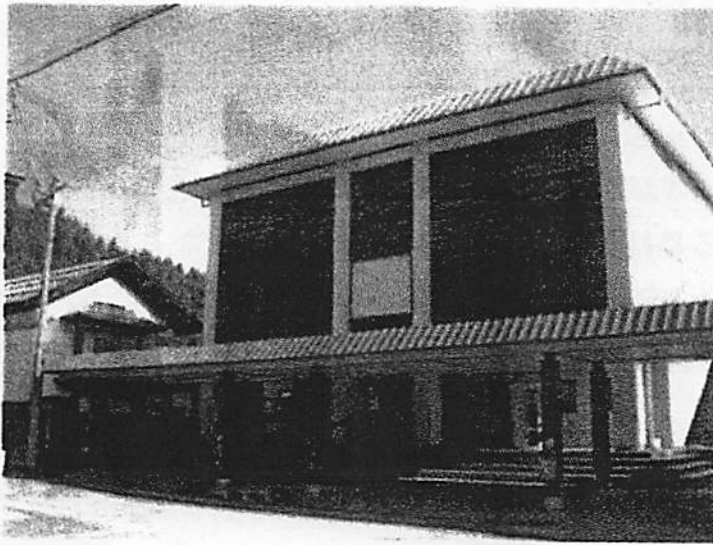
金山町の景観条例の改正、名称変更よりも20年前のことであったが、金山町の景観条例が機能し美しい街並み形成のバイブルとなっている中、我が町の景観条例は担当部署、担当者の取り組みに温度差があり、現在、有名無実化している。

案内をしてくれた、金山町のOB組織の金山町の景観を守るという熱意が素晴らしく、人材育成の必要性を強く感じた研修であった。

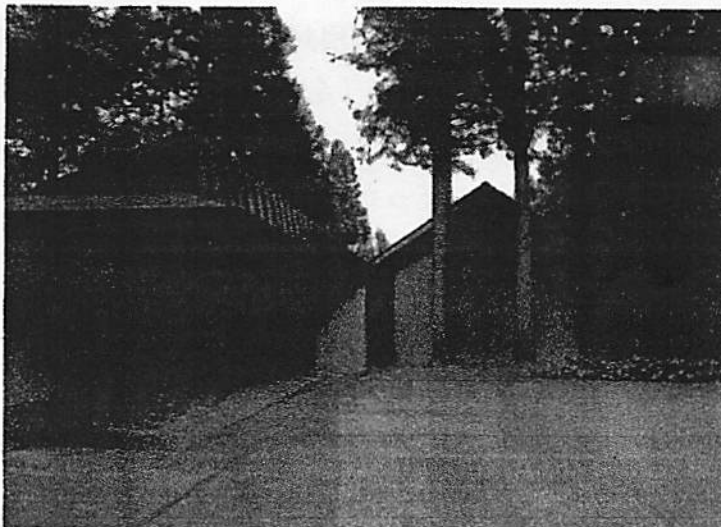
結論を一言で表現するならば「見習いたい金山町の景観」に尽きる。

<街並み景観の魅力となる公共建築物の整備事例>

■ 街並みの個性を生かした金山町庁舎



■ 森の中に溶け込む金山町火葬場



■ 蔵を再整備し、商工会等施設に利活用（蔵史館）

整備前



整備後



■ 町中心部に残る蔵と空地进行交流施設として再整備（マルコの蔵）



[街角交流施設・広場：マルコの蔵]



[広場でのイベント]



[西蔵での研修会]

■ 旧郵便局舎を交流サロンとして再整備（ぼすと）

整備前



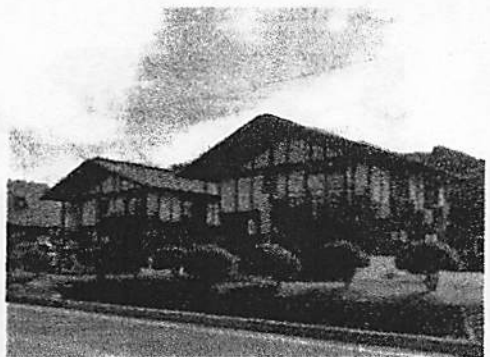
整備後



■ 金山住宅の様式を生かした町営住宅

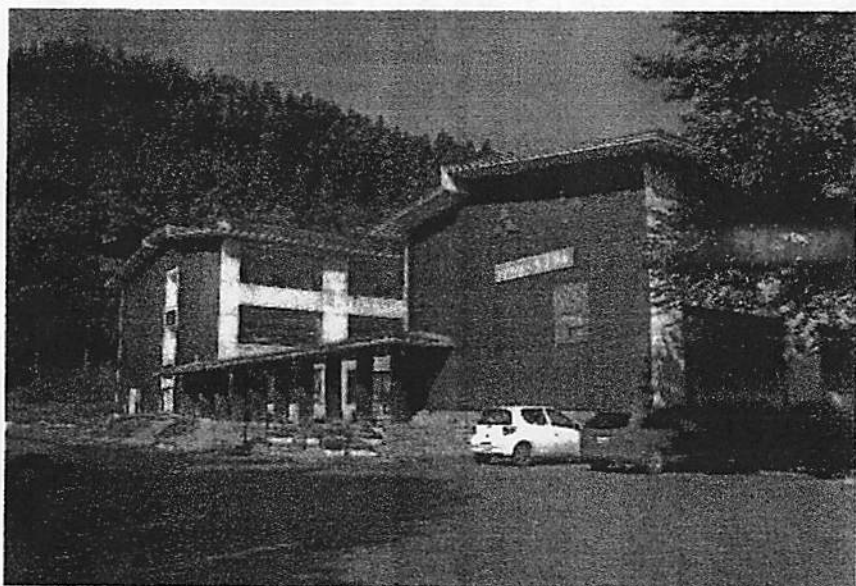


[羽場住宅]

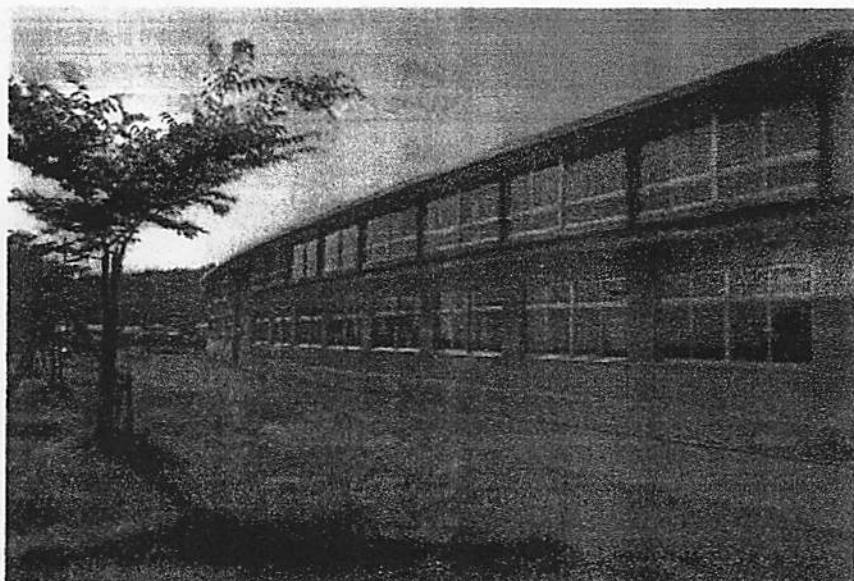


[町なか公営住宅]

■ 周囲の景観と調和した学校建築



[金山小学校]



[金山中学校]